

まつした
松下 遺跡

所在地 岡崎市外山町地内
(北緯 35 度 1 分 6 秒
東経 137 度 17 分 13 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発
施設用地造成事業

調査期間 平成 23 年 2 月

調査面積 240 m²

担当者 鵜飼雅弘・白井克尚



調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

調査の経過 松下遺跡は平成 21 年に実施された県教育委員会の試掘調査により、遺物散布地として確認された遺跡である。豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

立地と環境 松下遺跡は外山集落の東、標高 360m 前後の沢に面して立地する。近年まで居住域および耕作地として利用されていた。遺跡の東には下ソングレ遺跡が隣接する。

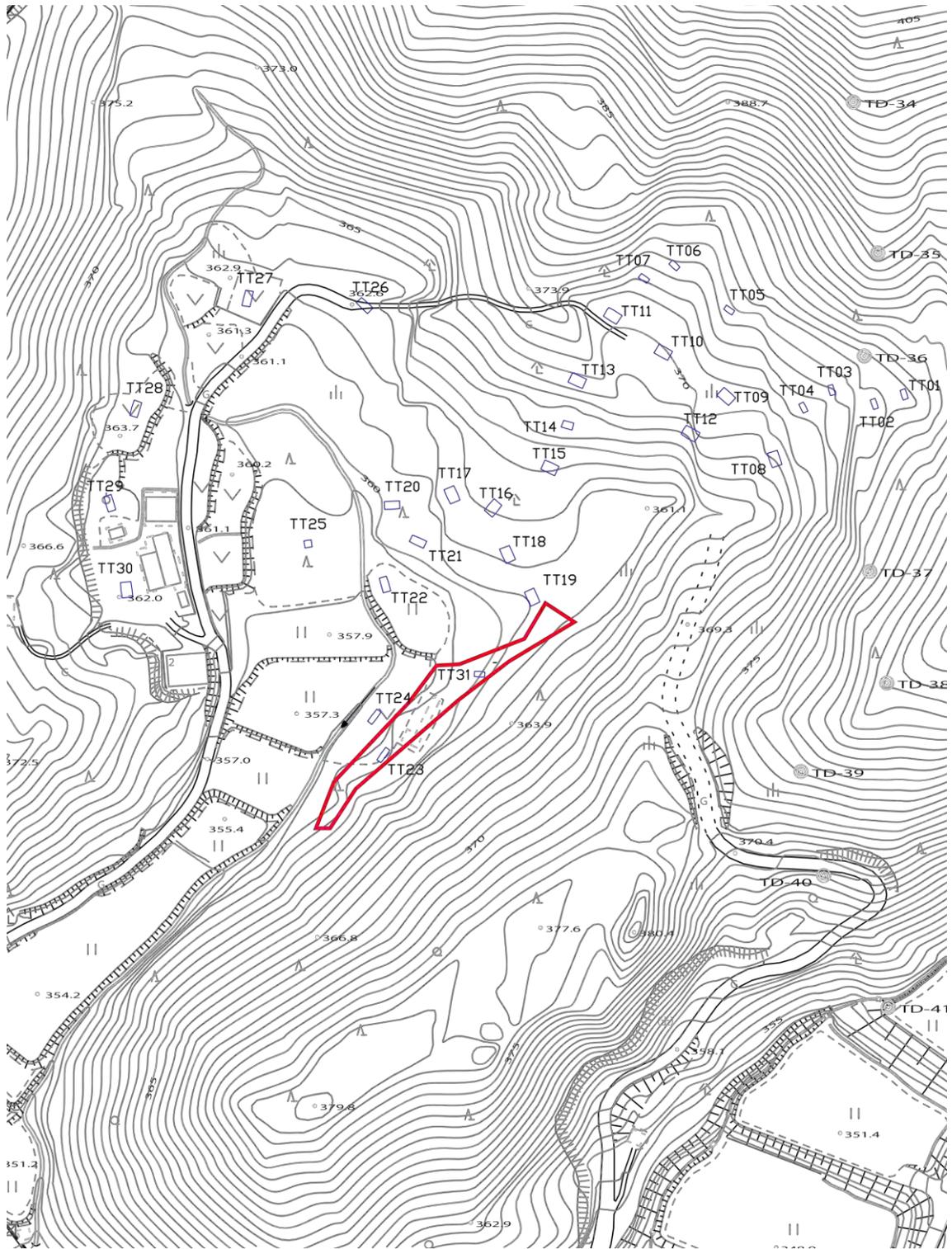
調査の概要 調査では 31 カ所の試掘坑を設置した。調査面積は 240 m²である。このうち水田の東に設置した TT23 では小土抗を 2 基検出し、TT31 の褐色シルト層から中世の山茶碗が出土した。

旧耕地とみられる平坦部に設置した試掘坑のうち、TT09 では石組みの井戸 1 基、TT08 では暗渠を検出した。出土遺物から、近世以降の構築とみられる。その他に TT07、TT10 では近世以降の遺物が出土したが、遺構は検出できなかった。

沢の西側に設置した試掘坑のうち、TT28 からは中世施釉陶器が出土したが、ごく新しい埋土からの出土である。

以上の所見から松下遺跡の範囲は、旧耕作地の東、山茶碗が出土した TT31、小土抗を検出した TT23 を含む平坦面が範囲と考えられる。

(鵜飼雅弘)



松下遺跡 試掘坑位置(S=1:1,000)